

有機薄膜太陽電池の現状と今後の展望

12. 有機分子・バイオエレクトロニクス 分科企画シンポジウム

日時 3月21日(月)
13:30~18:00

会場 大岡山西5号館W531室

企画趣旨

有機薄膜太陽電池は、低温で安価な塗布プロセスにより製造することが可能な次世代太陽電池と期待されています。一方で、エネルギー変換効率は、着実に向上しているものの未だ10%を超えた程度であり、さらなる向上が必要です。本シンポジウムでは、既存の研究開発課題の克服や新概念・新現象の創出による有機薄膜太陽電池の効率と信頼性の向上に向けて、産官学一体となって議論し、当該分野の発展に寄与したいと考えています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム

13:30-13:35	オープニングリマーク 吉田 郵司 (産業技術総合研究所)
13:35-14:05	有機半導体のpn制御と有機太陽電池への応用 平本 昌宏 (分子科学研究所)
14:05-14:35	高分子太陽電池の機構解明と高効率化 大北 英生 (京都大学)
14:35-15:05	有機薄膜太陽電池の光電変換機構の理論研究 田村 宏之 (東北大学)
15:20-15:50	高分子薄膜太陽電池のドナー/アクセプター界面構造制御 但馬 敬介 (理化学研究所)
15:50-16:20	電子ドナー性と電子アクセプター性共役高分子で創る高効率全高分子型薄膜太陽電池 辨天 宏明 (京都大学)
16:20-16:50	有機CT結晶を用いる高電圧有機太陽電池への挑戦 吉田 司 (山形大学)
17:00-17:30	有機薄膜太陽電池の高効率化に向けた半導体ポリマーの設計 尾坂 格 (理化学研究所)
17:30-18:00	多様な用途に適用できる有機薄膜太陽電池 都鳥 顕司 (東芝 研究開発センター)

世話人 嘉治 寿彦 (農工大)、久保 貴哉 (東大)、尾坂 格 (理研)